

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真で紹介いたします。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：とどろ渓谷】

俳句 (はつはな俳句会)

岬道また涼風とすれ違ふ 春日 ふく  
 豆飯の炊ける匂ひの噴きにけり 川畑 充子  
 草刈る手しばし休めて空を見る 熊谷 玉乃  
 砂の像高くそびえて夏の浜 城之園よしえ  
 五月晴れ大型船にはしゃぐ子等 横山 良子  
 水槽に入り沢蟹ポーズとる 本村 湧水  
 麦を刈るトルストイにはなれずとも 川畑 美行  
 山寺や海原遠くほととぎす 吉村 公香  
 人恋し恋しと夜の時鳥 本村多可子

短歌 (有明短歌会)

季の代わり朝夕の老いの茶の間には扇風機ストープ仲良く並ぶ 畑山みつぎ  
 一円玉置き忘れしをわざわざと電話給ひし局員の女 福元 忍  
 亡母の忌飯を供え香を焚く仏壇たかく一条の煙 徳田 将人  
 雨音の他なき昼どき厨辺に青葉を刻む刃こぼれ包丁 矢野 むつ  
 母の日に子らから届く白き百合仏間に香は満ちほころぶ遺影 野口 嵐  
 子も孫もスマホ片手に生返事一人の部屋に「きみまろ」を聞く 澤津川頼子  
 灯り付く家で待つ人居なけれど愛犬尾をふり安堵の帰宅 萩 幸子  
 たし算やひき算をする孫の指足りぬらしくて首をかしげる 木下マキ子  
 大戦の和国詔勅の教訓を未来に生かす世界連邦 大原 繁  
 逝きし春早巡りきて思い出の詰まりし家に風吹き抜ける 水上カズエ  
 田仕事を終えて水路に足洗う農婦と話す暮れ迫る頃 池迫 茂  
 食卓の花に吾が家の庭思う芍薬の花華麗に賞でる 石峰カズ子  
 航空ショー帰りに女孫らありあけの園に立ち寄り名残おしむ 宮脇 ナチ



Japanese Poem of 31syllables  
 \*Haiku Poem\*Comic Haiku\*

俳句 (志布志左右句会)

植え終へし肩に春雨鍬洗ふ 坪田 秀邑  
 嫁のせて馬も輝く春祭り 永山 又生  
 閑校の遊動円木花は葉に 山本せつ子  
 ころがつて春のクジラになりました 吉田 十二  
 梅干や淋しい時は茶漬食う 暉峻 康瑞  
 せせらぎに千のまばたき春の星 肥後 洋子  
 振り返り見れば父はは黄泉の旅 岩根 長初  
 天守閣松江城下は新緑に 東平 要一  
 来るはずのあなたが居ない春の市 藤後むつ子

薩摩郷句 (志布志薩摩郷句会)

咳くばしっ娘ん部屋へそつち視察ち入っ 福山 吉連  
 雲ん影日照りに優しゆ風を呼つ 木藤 富美  
 どりよつか 日照りに優しゆ風を呼つ 満留 ぐみ  
 努力家ん兄弟ん関取や市の誇い 新地 十意  
 仲直ゆしたどん内心は晴ん雲 樋渡草団子  
 脚句作いに錆くれ頭搾いきつ 竹之内零余子  
 玄関におじやつたもしち花が咲つ 伊地知 孝  
 相談事つ金じゃなれば上れ言つ 野村 三味  
 長げ語り痺れが切れつ便所け入っ